

CONTAINER FOR TWO-WHEEL BARROW TRANSPORT

Patent number: JP63178975
Publication date: 1988-07-23
Inventor: IWAMOTO HIDECHIKA
Applicant: YAMATO KAKOZAI KK
Classification:
- international: ***B65D19/12; B65D85/68; B65D19/02; B65D85/68;***
(IPC1-7): B65D19/12; B65D85/68
- european:
Application number: JP19870002064 19870108
Priority number(s): JP19870002064 19870108

Report a data error here

Abstract not available for JP63178975

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭63-178975

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)7月23日

B 65 D 85/68
19/12

6694-3E
6927-3E

審査請求 未請求 発明の数 1 (全6頁)

⑮ 発明の名称 二輪車輸送用コンテナ

⑯ 特 願 昭62-2064

⑰ 出 願 昭62(1987)1月8日

⑱ 発 明 者 岩 本 英 親 東京都台東区上野3丁目9番1号 大和化工材株式会社内
⑲ 出 願 人 大和化工材株式会社 東京都台東区上野3丁目9番1号
⑳ 代 理 人 弁理士 鈴木 正次

明 細 書

1. 発明の名称

二輪車輸送用コンテナ

2. 特許請求の範囲

- 下面に少なくとも一つのフォーク挿入部分を設けた台板の上面一側に前輪の落とし込み案内凹部を設け、前記台板の上面他側に後輪の挟着具を設置し、前記台板上に、四周および上部を覆う匣体を被覆固定してなる二輪車輸送用コンテナ
- 落とし込み案内凹部には、凹入部へ前輪の両側案内杆を設置した特許請求の範囲第1項記載の二輪車輸送用コンテナ
- 挟着具は挟着板、ナットおよびねじにより構成した特許請求の範囲第1項記載の二輪車輸送用コンテナ
- 匣体は折畳可能とした特許請求の範囲第1項記載の二輪車用コンテナ
- 匣体の側壁上部は透明とした特許請求の範囲第1項記載の二輪車輸送用コンテナ

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この発明は二輪車を複数台収容することができる匣体状コンテナに関するもので、コンテナの製造販売および使用の産業分野で利用される。

(従来技術)

従来、二輪車の輸送には、車輪止めを有する車台上へ二輪車を並列し、ハンドル又はサドル等を保定して輸送中の安定を図っていた。またコンテナを使用する場合にあっては、枠付コンテナの台板に二輪車を固定したものであった。

(発明により解決すべき問題点)

前記従来の輸送方式によれば、二輪車の積み卸した多大の労力と時間を要するのみならず、安定した積み上げが困難であった。

また枠付コンテナを使用した場合であっても、二輪車の保定が面倒であるばかりでなく、外部覆がない為に、野積みができない問題点があり、シートなどを被覆すると中が見えないとか、積み上げの安定性に欠けるとか、幾多の問題点があった。

(問題点を解決する為の手段)

然るにこの発明は、台板にフォーク挿入部を設けると共に、台板の一侧と他側とで二輪車の車輪を固定することにより、二輪車を保定し、台板の四周および上部に匣体を被冠することより、野積み可能にするなど、前記従来の問題点を解決したのである。

即ちこの発明は、下面に少なくとも一つのフォーク挿入部分を設けた台板の上面一侧に前輪の落とし込み案内凹部を設け、前記台板の上面他側に後輪の挟着具を設置し、前記台板上に、四周および上部を覆う匣体を被冠固定して、二輪車輸送用コンテナを構成した。前記において、落とし込み案内凹部には、凹部内へ前車輪の両側案内杆を設置してあり、落とし込むのみで前車輪を安定保持することができる。また挟着具は挟着板、ナットおよびねじによって構成され、ナットの締込みにより車輪へ挟着板を押し付けることができる。前記匣体は折疊可能にしてあって、比較的小容積に収容することができる。更に匣体の側壁上部は透明になっ

ており(例えば矩形状の透明窓とする)内容二輪車を容易に透視できるようになっている。

(発明の作用)

この発明は、フォークリフトなどを使用して車台上へ積み上げ、または積み卸しができると共に、倉庫内、又は屋外へ所定数積み上げて保管することができる。また透明部から内容物を透視し得ると共に、匣体により雨水等の侵入を防止することもできる。

(実施例)

次にこの発明の実施例を添付図面について説明する。

第1図乃至第3図はこの発明の台板を示すもので、台板1の下面の一侧(第2図中左側)には、フォーク挿入用の矩形孔2を設け、台板1の他側には、二輪車3の前輪4を落とし込む為の案内凹部5を設け、該案内凹部5には、前記前輪4の両側を案内する案内杆6を所定間隔で並列斜設(第2図中点線図示)してある。前記台板1は、方形枠7の内側に底板8を張設固定して構成してある。

前記底板8の一侧(第2図中右側)は、方形枠との間に所定の間隙を有し、この間隙部の下方に受匣9を固定して、前記案内凹部5が形成してある。前記台板1の底板8上の一側には所定高さにブラケット11、11を介して二本の螺杆10、10aが所定間隔を保って架設され、前記二本の螺杆10、10aには、挟着板12、12aの両端が夫々挿通され、ナット13、13aによって任意の位置に固定されている。この場合に挟着板12、12aは、固定された挟着板12と、可動の挟着板12aとになっており、可動の挟着板12aは、ハンドル14付ナット13aによって固定の挟着板12に離接する。前記方形枠7の一対の対辺内側に、管体15が等間隔で対向設置されており、管体15は、側壁板16の下端外側に固定された管体17との間にピンを挿通して側壁板16と方形枠7とを回転可能に取付けるようになっている(第7図)。前記側壁板16は横中央部において内側へ折疊可能になっており、側壁板16と天板18とは、天板18の対向縁部で回転自在に取付

けられている(第9図)。

前記実施例のコンテナは、天板を第10図のように開き、台板1上へ二輪車3を乗せ、その前輪4を案内凹部5内へ落とし込み、後輪4aを挟着板12、12aの間に挿入し、ハンドル14を持ってナット13aを回転し、挟着板12、12aによって後輪4aを締付け固定する。ついで天板18を被冠すれば直方体状のほぼ水密性のある二輪車入りコンテナとなる。従ってこのコンテナをフォークにより車台上へ積み上げ又は倉庫内或いは屋外へ積み上げることができる。

この発明のコンテナを折疊するには、第7図のように、先づ頂板18の下面側に一方の短側板21を矢示22のように回転してほぼ平行に当接すると共に、他方の短側板23を矢示24のように回転して台板1上へ重ね、ついで長側板16、16を矢示25、25のように内方へ折り曲げて相互に半折し、全体を重ね合せる。尚、長側板16は、下部の不透明板16aと上部透明板16b(例えばアクリル樹脂)とを中央部で接着して構

成される。

この考案のコンテナは第11図図示の積み込みから台車19による輸送、倉庫20、野積21、トレーラー輸送26、出荷先倉庫27、出荷先野積28、小売配送29および納品トラック30のように、最終小売まで二輪車入りコンテナ31がそのまま使用される。

(発明の効果)

この発明は、フォーク挿入部を有する台板上へ車輪固定によって二輪車を保定し、台板へ匣体を被冠したので、二輪車の積み上げ、積み卸しを容易、かつ迅速化し得ると共に、コンテナの複数安定積層が容易となる効果がある。また野積みが可能となり、かつコンテナに収容したまま展示もできる利点もある。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の実施例の台板の拡大平面図、第2図は同じく拡大正面図、第3図は同じく拡大側面図、第4図は同じくこの発明の実施例の正面図、第5図は同じく平面図、第6図は同じく側面

図、第7図は同じくコンテナの折畳を示す説明図、第8図は同じく斜視図、第9図は同じく折畳中間状態の斜視図、第10図は同じく開蓋状態の一部を省略した斜視図、第11図はこの発明の利用状態を示す説明図である。

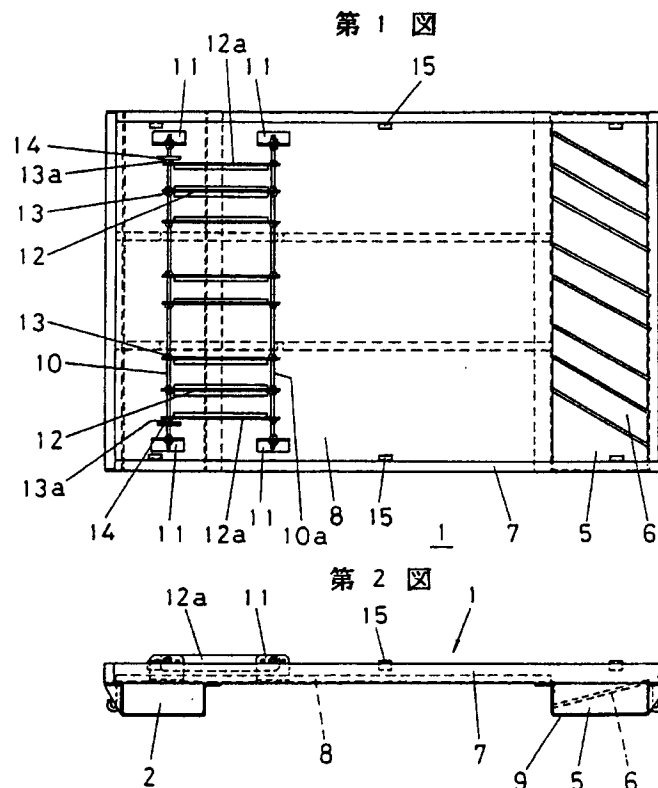
- 1…台板 2…矩形孔 3…二輪車
- 4…前輪 5…案内凹部 6…案内杆
- 7…方形枠 8…底板 9…受匣
- 10、10a…螺杆
- 12、12a…挟着板
- 13、13a…ナット
- 14…ハンドル 16…側壁体
- 18…天板

特許出願人

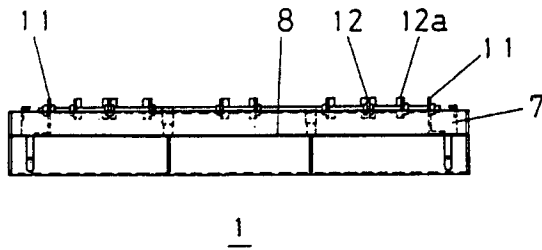
大和化工材株式会社

代理人

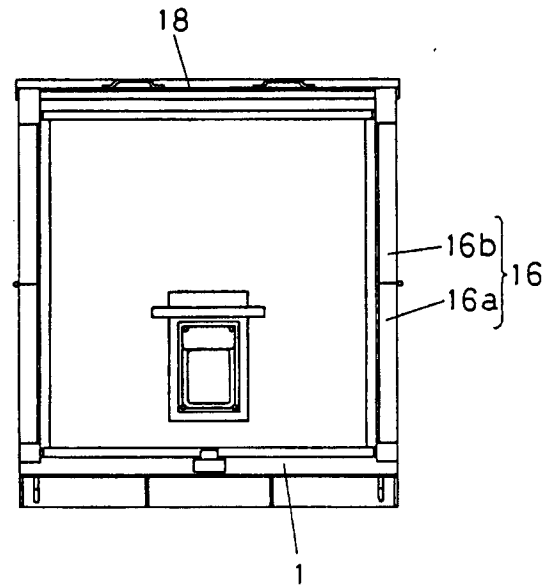
鈴木正次



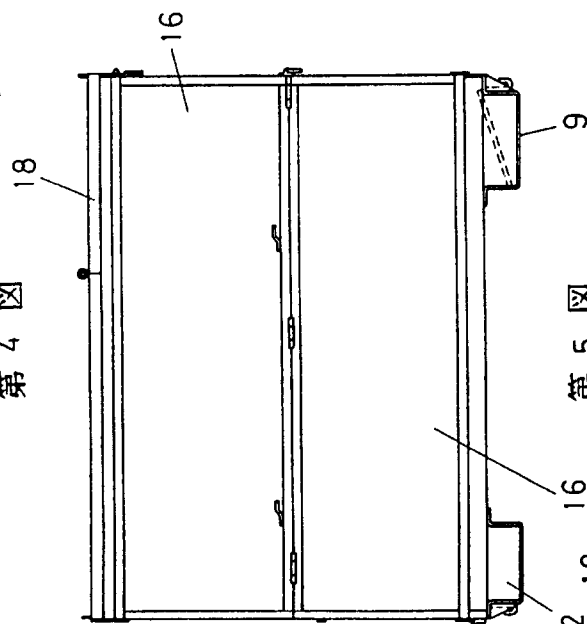
第3図



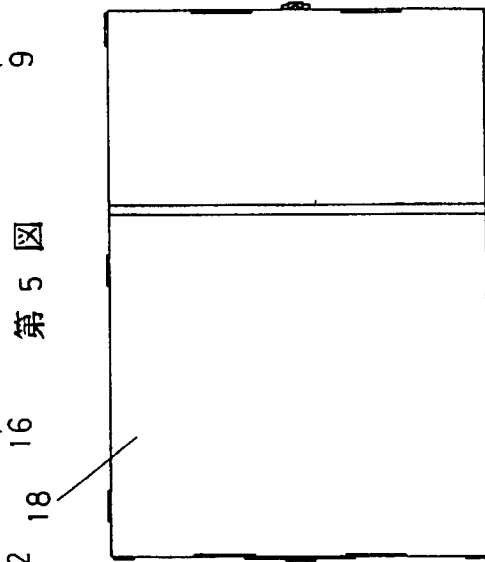
第6図

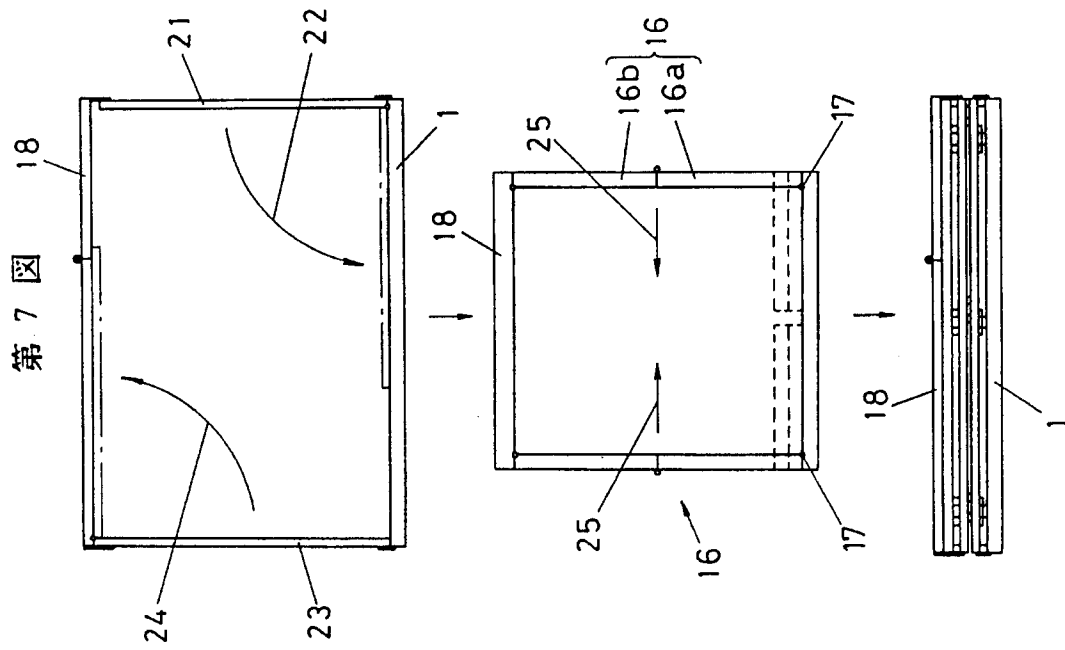


第4図

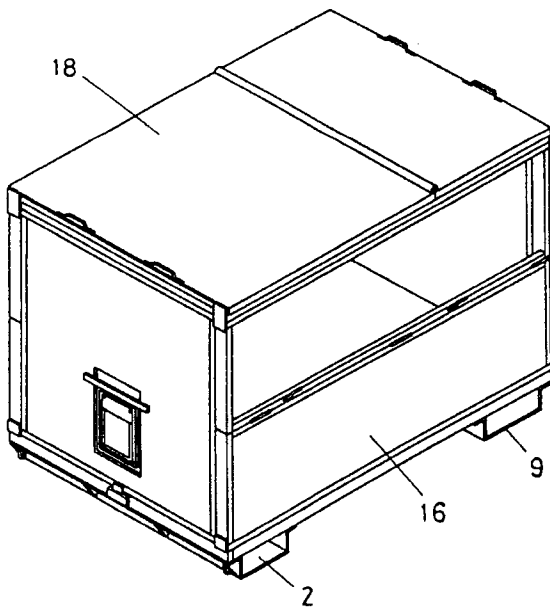


第5図

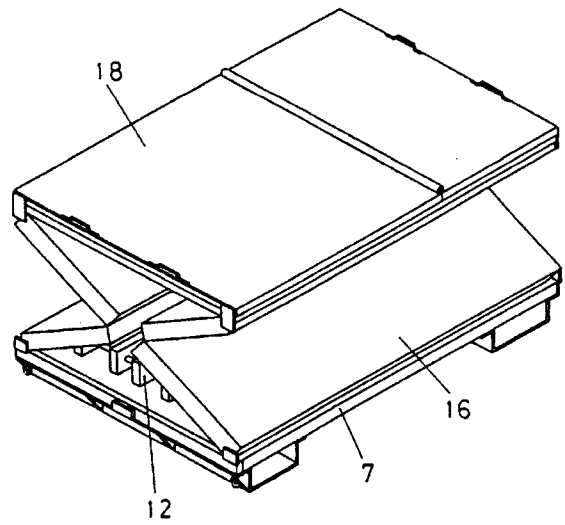




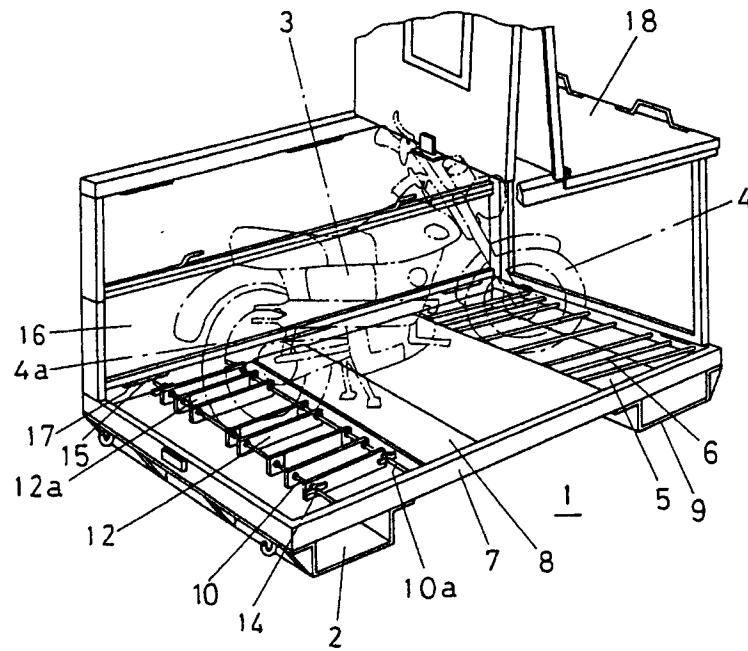
第8図



第9図



第 10 図



第 11 図

